

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(2月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

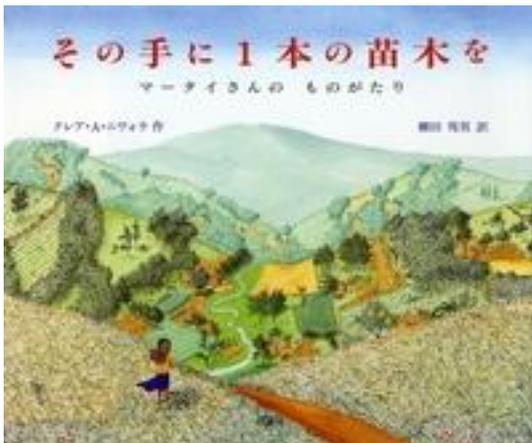
矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『その手に1本の苗木を』

クレア・A・ニヴォラ 作・絵 / 柳田邦男 訳 / 評論社

対象：6歳位からから高齢者まで



内容のご紹介

2月に入りました。まだまだ寒い日が続きます。お体を大切にしてください。今年で矢祭もったいない図書館が開館20年目を迎えました。全国からの寄贈本で開館をしました。皆様の思いがある図書館です。

“もったいない”の言葉は、日本文化の現われです。物を大切にし、無駄にしない精神で心を創る言葉です。

今月、ご紹介する絵本は、ワンガリ・マータイさんの伝記“その手に1本の苗木を”です。絵本コンクール審査委員長の柳田邦男先生が翻訳をしています。

どこの国でも文明が進むと、自然・環境・生活が変わります。矛盾との考え方が大事です。

この絵本から、人々は常に環境問題や地域の連帯感を継続する大切さの考えが伝わり、知ることが出来ます。マータイさんは、情熱と行動力のある素晴らしい人です。人との出会いや本との出会いを、大切にしてください。地域や社会のために必ずあります。

「モッタイナイ」の精神を世界に広め、アフリカ人女性で初のノーベル平和賞を受賞したケニアの環境保護活動家ワンガリ・マータイさんの伝記絵本。(紹介文:評論社)

ケニアの農村に生まれた彼女に影響を与えたのは、留学先のアメリカで学んだ『自分のことだけを考えるのではなく、もっと大きく世界のことを考えなさい。』との教えでした。未来を担う子どもたちの心に、この物語が苗木を植えてくれることを願います。(2011年9月25日、マータイさんは72歳で永眠されました。)マータイさんが提唱した「もったいない精神」を受け継いで開館した「もったいない図書館」は、平成19年(2007年)1月14日に開館して、19年経過いたしました。(紹介文:矢祭もったいない図書館)